

各 位

2025 年 10 月 30 日

次世代バンキングシステムへの更改について

東和銀行（頭取 江原 洋）は、SBI ホールディングス株式会社（本社 東京都港区、代表取締役会長兼社長 北尾 吉孝）の子会社である SBI 地方創生バンキングシステム株式会社（本社 東京都港区、代表取締役 木村 紀義）が提供する「次世代バンキングシステム」を採用することを決定しましたので、お知らせいたします。

記

1. 次世代バンキングシステムとは

本システムは、SBI 地方創生バンキングシステム株式会社およびフューチャーアーキテクト株式会社（本社 東京都品川区、代表取締役社長 谷口 友彦）がゼロベースで共同開発した、地域金融機関向けのクラウドベースの基幹系業務システムです。

2. 本システム採用の理由

当行は、お客様の利便性の向上を一層図るとともに、当行の業務改革を加速させるためには、本システムが最適であると判断し採用いたしました。

（1）お客様の利便性向上

- ① タブレットとセルフキャッシャー（簡易入出金機）により、伝票レス・印鑑レス（※1）のお取引が実現し、スムーズな窓口手続きが可能となること。（※1）一部のお取引を除く
- ② 東和銀行アプリや個人・法人インターネットバンキングシステムの機能強化により、ご来店不要のWEB取引が拡充されること。
- ③ オープン API により、多くの外部事業者との連携を進めることが可能となり、お客様へ最新の金融商品やサービスを提供できること。

（2）当行の業務改革

- ① 銀行業務のデジタル化・システム化・自動化により、抜本的な業務効率化が図られ、少人数での営業店運営が実現できること。
- ② 各種情報の一元管理や一気通貫の業務プロセスが確立でき、リアルタイムでの経営分析や戦略立案が可能となること。
- ③ BRMS（Business Rule Management System）（※2）により、新しいサービスの拡充や機能の新規・追加開発が、低コストかつ短期間で実現できること。
- ④ Amazon が提供する AWS（Amazon Web Services）上に設計・構築され、最新のサイバーセキュリティ対策と高い拡張性が実現できること。
- ⑤ 営業店の全業務を、汎用 PC とタブレット端末で完結でき、更新コストの大幅な削減が見込めること。

（※2）業務上のビジネスルールを業務アプリケーション本体から分離して一元管理・実行するシステムで、ルール変更への対応が容易で、業務アプリケーションの再開発が不要となることから、迅速な機能変更・拡張が可能となる。

3. 稼働予定時期

2029 年中の稼働を予定しております。

4. 次世代バンキングシステムの概要

(1) 主なシステム

- ① スリムかつコンパクトな「勘定系システム」
- ② リアルタイムデータを提供する統合データマート（※3）を活用した「情報系システム」
- ③ 渉外・融資業務の効率化を実現する「FutureBANK」（※4）
- ④ 顧客チャネル拡大に柔軟に対応する「外部 API 基盤」（※5）
- ⑤ スマートフォンやタブレットに最適化された、先進的 UI（※6）を提供する「個人・法人インターネットバンキング」

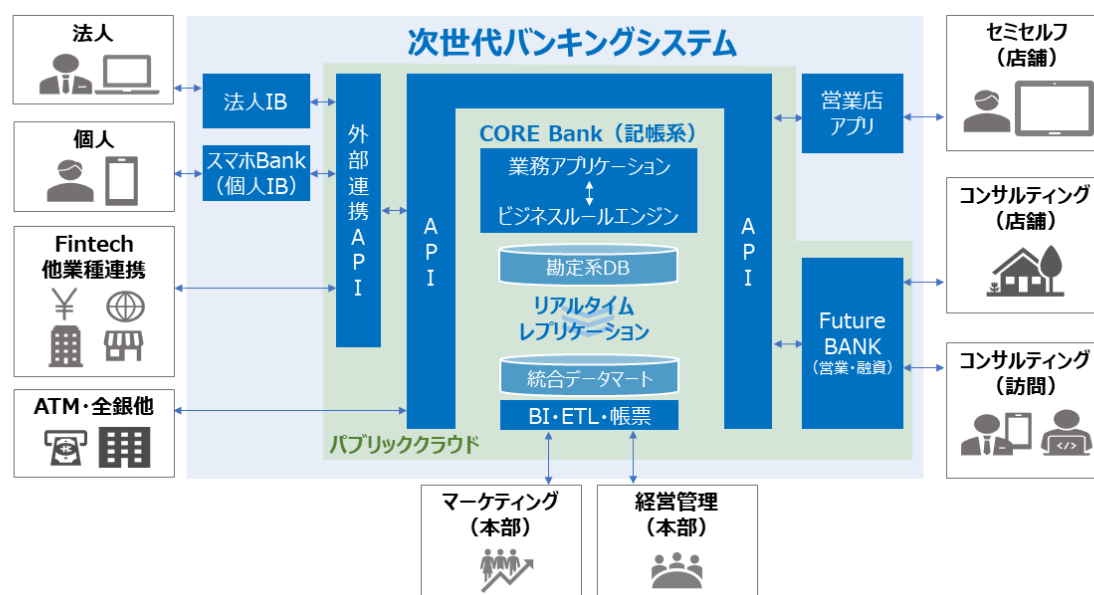
（※3）特定の部門や用途向けに抽出・加工された複数のデータ群を統合的に管理することで、データ活用をより高度かつ効率的に活用する仕組み。

（※4）お客様の情報を効率的に整備・統合し、営業推進・案件稟議・審査・格付自己査定・個人ローン・預り資産販売等の業務プロセスを一体的に連動させる業務系システム。

（※5）全てのバンキングシステムを API で提供可能とし、新たなサービスの提供・創出に向けた、お客様や Fintech 事業者等とのアクセスチャネルの基盤。

（※6）ユーザー・インターフェース（User Interface）の略称で、利用者とサービスを繋ぐ接点のこと。

(2) イメージ図



以 上